



中央教育審議会大学分科会
第6回質保証システム部会

**共愛学園前橋国際大学における
学修成果の可視化と教学マネジメントーKYOAI CAREER GATEを中心にー
+（内部）質保証のための体制整備／人材育成に向けて**

学長 大森昭生



共愛学園前橋国際大学
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY

学修成果の把握・可視化とは

学修成果・教育成果の把握・可視化は、学修者本位の教育を実現する観点から、**一人一人の学生が自らの学びの成果（学修成果）として身に付けた資質・能力を自覚できる**ようにすることが重要である。このため、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を可視化された**エビデンスとともに自ら説明できる**ように複数の情報を組み合わせた多元的な形で行われることが必要である。また、**大学が**、学位プログラムを通じて同方針に定める資質・能力を備えた学生を育成できていること（**教育成果**）も、学修成果と同様に**説明できる**ことが必要である。

—KYOAI CAREER GATE—

4年間の主体的な学修とその成果を目に見える形で積み上げ、キャリアにつなげる。

4年間に会うたくさんの学びと活動。その一つ一つを、eポートフォリオである

KYOAI CAREER GATE

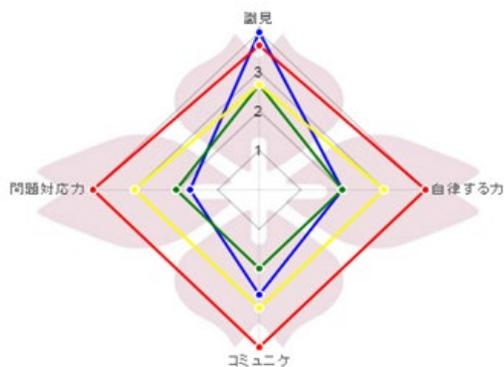
に蓄積し、自分の学修を振り返りながら、それをエビデンスとして、学修成果指標に基づく成果の自己評価と可視化をします。さらに、その活動や成果を

SHOWCASE

を通して社会へと発信し、目指すキャリアへと接続します。



共愛12の力 レーダチャート



4年間の学修で身に付ける4つの軸と12の力 (学修成果指標)

| | | | |
|-----------|-------------|-------------|--------------|
| 識見 | ■ 共生のための知識 | ■ 共生のための態度 | ■ グローバル・マインド |
| 自律する力 | ■ 自己を理解する力 | ■ 自己を制御する力 | ■ 主体性 |
| コミュニケーション | ■ 伝え合う力 | ■ 協働する力 | ■ 関係を構築する力 |
| 問題に対応する力 | ■ 分析し、嗜好する力 | ■ 構想し、実行する力 | ■ 実践的スキル |

SHOWCASE (KCG+S)

KCG に蓄積した成長の記録を公開履歴書としてキャリアに接続

≡ CAREER ≡

ディプロマポリシーと「共愛12の力」(学修成果指標)

建学の理念：共愛＝共生の精神

教育の目的：国際的な視野を持ち、地域の諸課題を解決できる人材育成

ディプロマポリシー (DP) :

1. 地域社会の諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実技的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力



各コースが育む
知識・スキル

共愛12の力

| | |
|------------|------------|
| 識見 | 共生のための知識 |
| | 共生のための態度 |
| | グローバル・マインド |
| 自律する力 | 自己を理解する力 |
| | 自己を制御する力 |
| | 主体性 |
| 問題に対応する力 | 分析し、思考する力 |
| | 構想し、実行する力 |
| | 実践的スキル |
| コミュニケーション力 | 伝え合う力 |
| | 協働する力 |
| | 関係を構築する力 |

理念・目的・DP・地域産業界ニーズから導かれる達成指標

- シラバスに「共愛12の力」との対応を明記
→ KCG (eポートフォリオ) に履修履歴と共に蓄積

| | | |
|--------------|---|-------------|
| 到達目標 | 高校からの環境移行に伴う変化にうまく適応し、新たな関係づくりができることや資料調査を行う際に必要な基本技術を身につけることを目標とします。 | |
| 「共愛12の力」との対応 | 識見 | 自律 |
| | 共生のための知識 | ○ 自己を理解する力 |
| | 共生のための態度 | － 自己を制御する力 |
| | グローバル・マインド | ○ 主体性 |
| 教養 | ゼミ別に分かれた授業と、5ゼミ合同の授業を適宜使い分けて行います。授業の進行は演習交流も重ねて、上級生の海外体験を聴くなどの特別セッション、グループ作業、スポーツ大会 | |
| 受 | アクティブラーニング | ○ サービスラーニング |

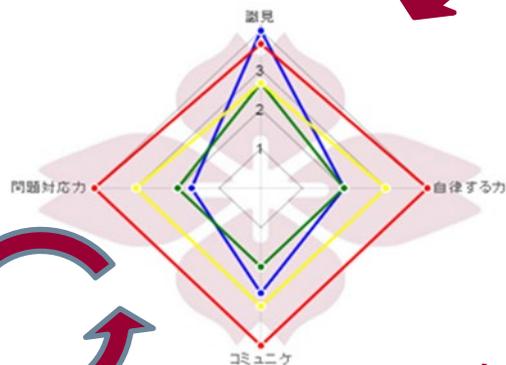
共愛学園前橋国際大学がめざす

エビデンスベースの自己評価による学修成果の可視化と自律的学修者の養成



リフレクション

リフレクションアワー
+
担当教員との個別面談



自己評価



- 学修活動の振り返り
- 学修計画の調整・改善
- 学修成果の総括

ショーケース
キャリアプランニングで
の作成指導

学生の自主的な取り組みに加え、
授業課題やゼミ選択条件とするなどの
動機づけも

エビデンスの蓄積

(ポートフォリオ: KCG)

共愛12の力にリンク

評価規準

(コモンルーブリック)

授業での学修

学内活動

学外活動

| 科目 | 振り返り |
|------|------|
| 〇〇演習 | ... |
| △△学 | ... |
| □□概論 | ... |



(参照)
外部テスト



共愛学園前橋国際大学コモンルーブリック

| 4の軸 | 12の力 | 12の力の定義 | レベル4 | レベル3 | レベル2 | レベル1 |
|------------|-----------|---|--|---|---|--|
| 識見 | 共生のための知識 | 多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識 | 共生のための社会の諸課題に対応するための、新たな知見を生み出すことができる。 | 共生のための社会の諸課題について、知識を組み合わせ、自分の言葉で説明することができる。 | 所属するコースの専門的な知識を習得している。 | 文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。 |
| | 共生のための態度 | 多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動 | 多様な存在が共生可能な社会のために、考え、学び、行動し続けることができる。 | 多様な存在が共生する社会の中で、自分ができること、やらなければならないことについて考えることができる。 | 授業や活動を通じて、社会が多様な存在で構成されていることを理解し、多様性を尊重する気持ちを持っている。 | 自分の態度や信念は他の文化やコミュニティの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。 |
| | グローバルマインド | 地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢 | 地域社会と世界をつなぎ、自らが暮らし、地域社会の発展に貢献するグローバル人材として活躍していくビジョンを持っている。 | 地域社会と国際社会の関わりについて、様々な学びを通じて、主体的に考えることができる。 | 母国以外の政治・経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。 | 自らの暮らし、学びの場である地域の経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。 |
| 自律する力 | 自己を理解する力 | 自己の特徴、強みや弱み、成長を正確に理解する力 | 様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に表現でき、将来に向けての自分をイメージすることができる。 | 様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。 | 自らの興味関心や特徴、長所や短所について考えながら、授業や活動に取り組むことができる。 | 授業や学内外の活動を通じて、自分の興味関心のありかを確認したり、新たな興味の対象を見つけようしたりしている。 |
| | 自己を制御する力 | ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力 | ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつつ、大きな困難に挑戦し、価値あることをやり遂げた経験と自信がある。 | ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつつ、困難な課題に取り組み続けることができる。 | 達成が容易でない課題でも、最後まで粘り強く取り組むことができる。 | 設定した目標に向かって、取り組むことができる。 |
| | 主体性 | 人からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力 | 達成困難な課題であっても、解決のための方法を模索しながら、自ら動き続けることができる。 | 自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。 | 指示を待つのではなく、自分の状況を判断した上で、自らすべきことを見つけ、行動している。 | 指示を待つのではなく、何をすればよいか、するべきかを見つけようとしている。 |
| コミュニケーション力 | 伝え合う力 | コミュニケーションにおいて相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝達する力 | レベル1～3を複数の言語で行うことができる。 | 適切なコミュニケーション・ツールを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。 | コミュニケーションの状況や相手の立場を考慮して、伝達方法を工夫することができる。 | 発言や文章の論点を正しく理解することができる。 |
| | 協働する力 | 他のメンバーと協調しながら集団として目標に向けて行動する力 | 良いグループになるための条件を常に模索し、他のメンバーへの働きかけを通じて、グループの目標達成に貢献することができる。 | 多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。 | グループでの自分の役割、責任を理解し、自分なりにグループに貢献することができる。 | 他者の発言をよく聞き、会話の流れをしっかりと追いつきながら、グループに協力することができる。 |
| | 関係を構築する力 | 様々な他者と円滑な関係を築く力 | 自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。 | 互いの状況や立場についての理解を深め合うことにより、相手と円滑な関係を築いていくことができる。 | 相手の状況や立場を理解し、共感を示しながらコミュニケーションすることができる。 | 自分の気持ちを一方的に伝えるだけでなく、マナーを守り、相手を尊重してコミュニケーションすることができる。 |
| 問題に対応する力 | 分析し、思考する力 | 様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を発見する力 | 必要な情報を効率的に集め、多面的視点から分析を行い、現実の、または学術上の問題について新たな課題を発見することができる。 | 情報・資料の分析を通じて、物事を多面的に見ることにより、問題の新たな側面を発見することができる。 | 自ら情報・資料を収集し、それらを論理的に分析し、考察することができる。 | 与えられた情報・資料を客観的に読み取ることができる。 |
| | 構想し、実行する力 | 課題に対応するための計画を立て、実行する力 | 現実の、または学術上の問題を解決するために、収集した情報や知識を活用しながら計画を立て、実行することができる。 | 計画の進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正しながら、着実に実行していくことができる。 | 立てた計画を着実に実行することができる。 | 取り組むべき物事に対して合理的な計画を立てることができる。 |
| | 実践的スキル | 現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル | 問題解決に役立つ様々なスキルを組み合わせ、状況に応じて柔軟に活用することができる。 | 自らの強みとなるスキルを身につけ、問題に対応することができる。 | 学びに必要な基本的な事柄を自らのスキルとして活用できる。 | 学びに必要な基本的な事柄（コンピュータの使い方やレポートの書き方など）を理解している。 |

Kyoai Career Gate の実際

共愛学園前橋国際大学

マイポータル > ポートフォリオTOP

プロフィール

キョウアイ タロウ
共愛 太郎
国際社会学部 国際社会学科 4年
0122XXXX
プロフィール変更

共愛12の力 自己評価(1年次) 詳細

共愛12の力 自己評価(2年次) 詳細

共愛12の力 自己評価(3年次) 詳細

共愛12の力 自己評価(4年次) 詳細

共愛12の力 レーダチャート

学内活動

| 作成日 | 件名 |
|------------|-----------------|
| 2015/04/29 | 基礎講習1 |
| 2015/05/15 | 子どもの生活と学び |
| 2015/05/20 | 子どもの生活と学び |
| 2015/05/27 | 基礎講習1 |
| 2015/06/11 | 子どもの生活と学び |
| 2015/06/24 | 基礎講習1 |
| 2015/07/22 | 基礎講習1 |
| 2015/07/25 | オープンキャンパス コース説明 |
| 2015/08/04 | 海外サポートインターン研修 |
| 2015/08/06 | オープンキャンパスリハーサル |
| 2015/10/07 | オープンキャンパス反省会 |
| 2015/10/08 | シャロン懇話し合い |

学外活動

| 作成日 | 件名 |
|------------|-------------|
| 2015/07/10 | 保育実習生ボランティア |

取得資格

| 取得日 | 資格名 |
|------------|-------------|
| 2015/04/13 | TOEIC 620点 |
| 2014/10/31 | リトミック指導員 初級 |

学年振り返り

1年生

目標(1年生)

一人暮らしでの生活・グローバルな視点で考えること、英語を学ぶ、学外で参加してみよう。これは成長だと理解する力・自信とは異なる、は大変だったが、英語を学ぶこと、出された課題へに挑戦することがに取組む決意をもち、頑張ろうとより分かった。コミュニケーション・協働する、グループで一つのもので、みんな一つにすることが、はじめの違う意見を理解できたので、理解できた。英語を学ぶ力・構想スキル) レポート、書きたいこと、察するという書になった。課題はできたので良

振り返り(1年生)

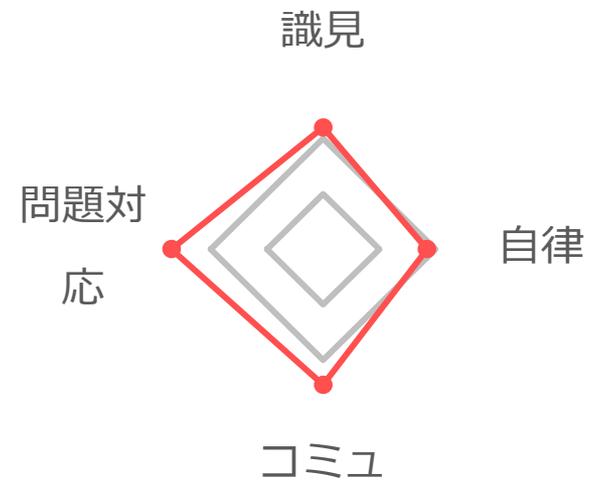
<記録項目>

- 「共愛12の力」の自己評価
- 学内活動 学外活動
資格取得 読書履歴
- 学年目標
- 学年振り返り
- 授業振り返り

※活動記録は投稿時に自分で「12の力」とタグ付け
※履修情報・シラバスと連動

(例) 学生が「主体性」の成長ついて振り返る

「主体性」を横断検索



コモンルーブリックを
規準として自己評価

| 活動 | 概要・コメント・成果物など |
|--------------|---|
| 授業A | |
| 授業D |  |
| ... | |
| ▼▼ (留学) |  |
| □□ (サークル) | |
| ○○ (読書履歴) | |

「主体性」にタグ付けされた記録を一括表示

Kyoai Career Gate の実際

自己を理解する力 (2年次)

レベル3:様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。

自己を制御する力 (2年次)

レベル3:ストレスや感情の揺れ動きと上手く付き合いながら、困難な課題に取り組み続けることができる。

主体性 (2年次)

レベル3:自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。

エビデンスにした活動や授業 (2年次)

ミッショングローバル研修は、異国の地で毎日1つの課題を限られた時間で解決していきました。私は海外に行くのも初めてでそんな中課題を与えられ、辛くストレスに感じることもありましたが、友達と励ましあったりすることで研修に前向きに取り組むことができました。また、チームで活動することが多かったので限られた時間の中で自分は何をすることでチームのためになるのかを常に考え行動することができました。

伝え合う力 (3年次)

レベル3:適切なコミュニケーション手段・スキルを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。

協働する力 (3年次)

レベル3:多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。

関係を構築する力 (3年次)

レベル4:自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。

エビデンスにした活動や授業 (3年次)

インバウンド人材育成PRGでは、学年、コースの異なる学生とチームを組み、活動を行っていたため、活動中は様々な意見やアイデアが出され、新しい考え方というものを学んだ。また、前橋市でインバウンド事業に取り組んでいる市の職員や、フラワーパークの社長など、多くの方々と一緒に活動していく中で、社会人とのコミュニケーションの取り方や、距離感、話し方など、多くのマナーが身に着いた。

KCG+Sの実際 (ショーケース)

KCG+S KYOAI CAREER GATE SHOWCASE 共愛学園前橋国際大学

ハイライト 学内活動 学外活動 取得資格 その他

2012

November 24 パーチャルカンパニートレードフェア2012 京都府知事賞受賞 学外活動 2012/11/24ハイライト

2012年度の前期・後期を通じて活動してきた電子商取引演習の一環として参加した大会で最高位賞 京都府知事賞を受賞した。

この大会は、日本全国の小学生から大学生までが仮想企業を立ち上げて参加するというものである。それぞれの企業（チーム）が各地の特色を生かした商品やサービスを作り上げ、その成果を発表する。私たちの企業は私を含めた1年生2名、2年生2名計4名で参加し、数種類の特産品であるソウメイワケを使用したつけ麺を出展した。

京都大学を会場として行われるこの大会では、実際に対面販売を行い、生のお客様の声を聞くことで自分たちの活動がどのような点で改善の必要があったか等身をもって体験することができた。

私は今回の大会で最高位賞を受賞することができたが、悔しむ方が多く残っている。それは、商品を売ることができなかった点である。

この一年の活動で、もともと私が積極的に周りに働きかけたいという意思決定のスピードを速めることができている。今回より売れる商品にできていたかもしれないという悔いが残っている。

そのため、半年度も電子商取引演習を受講することにより、さらに商品開発や販売することについて学びたいと考えている。



KCG+S (Kyoai Career Gate + Showcase) は、共愛学園前橋国際大学が運営する公開履歴書システム (ショーケース) です。学修成果を記録するシステムであるKCG (eポートフォリオ) に連携された大学生生活全般にわたる学びとその学修成果から、学生自身が選択して表示したものです。学生の学びや経験のエビデンス (証拠) としてご利用ください。

東京大学国際センター主催の「グローバルキャリア・コンテスト」に参加し、2012/11/24に開催された「仮想カンパニートレードフェア2012」で最高位賞を受賞した。

この大会は、日本全国の小学生から大学生までが仮想企業を立ち上げて参加するというものである。それぞれの企業（チーム）が各地の特色を生かした商品やサービスを作り上げ、その成果を発表する。私たちの企業は私を含めた1年生2名、2年生2名計4名で参加し、数種類の特産品であるソウメイワケを使用したつけ麺を出展した。

京都大学を会場として行われるこの大会では、実際に対面販売を行い、生のお客様の声を聞くことで自分たちの活動がどのような点で改善の必要があったか等身をもって体験することができた。



2012/11/24ハイライト

2012年度の前期・後期を通じて活動してきた電子商取引演習の一環として参加した大会で最高位賞 京都府知事賞を受賞した。

この大会は、日本全国の小学生から大学生までが仮想企業を立ち上げて参加するというものである。それぞれの企業（チーム）が各地の特色を生かした商品やサービスを作り上げ、その成果を発表する。私たちの企業は私を含めた1年生2名、2年生2名計4名で参加し、数種類の特産品であるソウメイワケを使用したつけ麺を出展した。

京都大学を会場として行われるこの大会では、実際に対面販売を行い、生のお客様の声を聞くことで自分たちの活動がどのような点で改善の必要があったか等身をもって体験することができた。

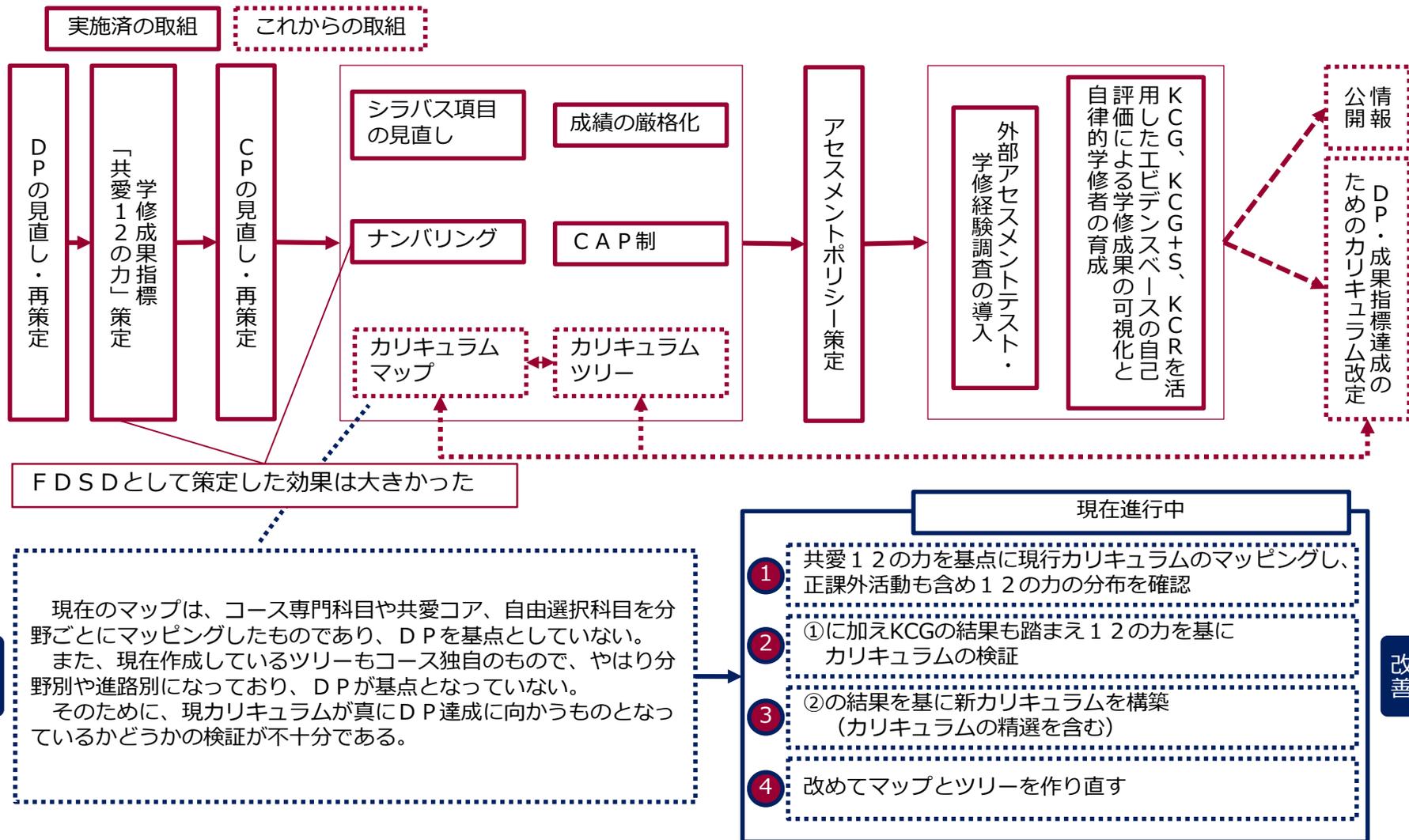
私は今回の大会で最高位賞を受賞することができたが、悔しむ方が多く残っている。それは、商品を売ることができなかった点である。



2012/11/24ハイライト

2012年度の前期・後期を通じて活動してきた電子商取引演習の一環として参加した大会で最高位賞 京都府知事賞を受賞した。

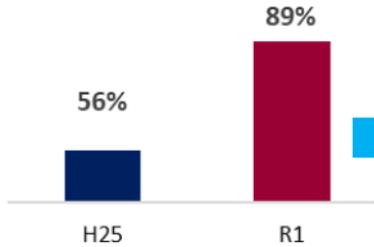
共愛学園前橋国際大学における教学マネジメントの進捗状況



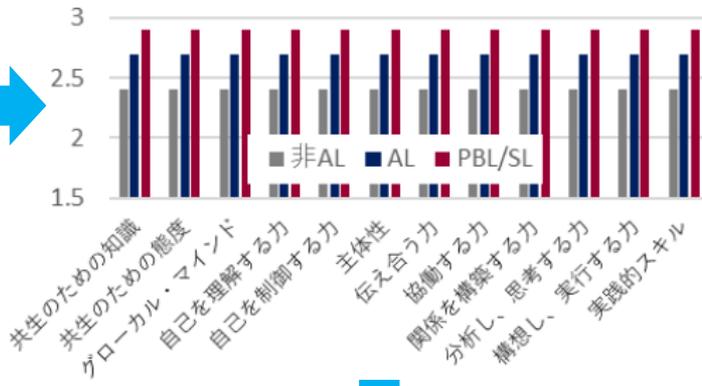
※KCG=KYOAI Career Gate ※KCG+S=KYOAI Career Gate Showcase ※KCR=KYOAI Common Rubric

共愛学園前橋国際大学における教育成果の可視化の努力

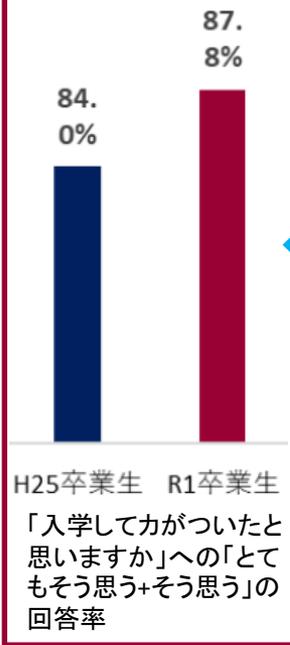
【AL導入科目の増加】



【授業手法別「共愛12の力」獲得感】

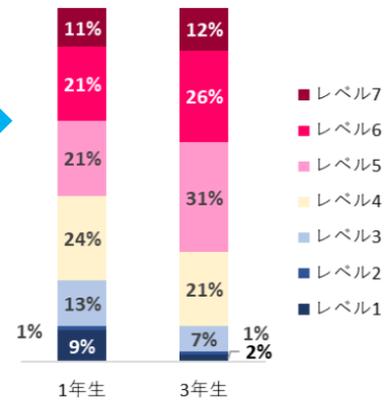


＜卒業時学生調査＞

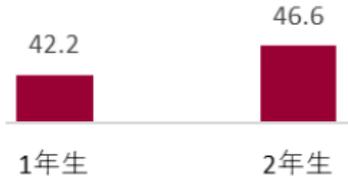


各種外部調査活用による検証

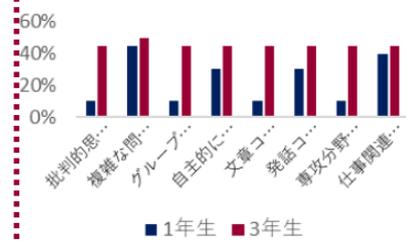
【PROGテスト(リテラシースコア分布)】



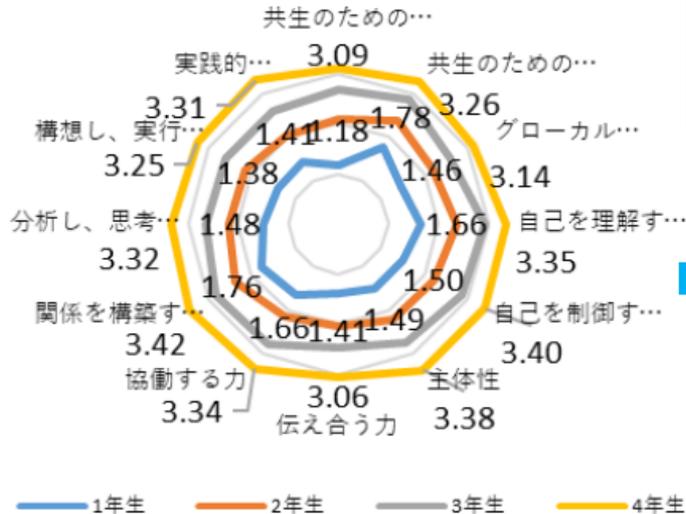
【GPS思考力スコア】



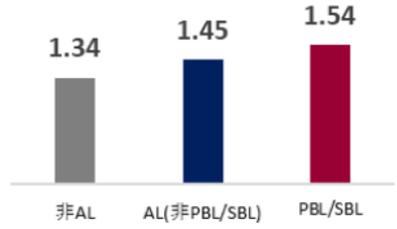
【JUES「大学生の学修経験調査」】



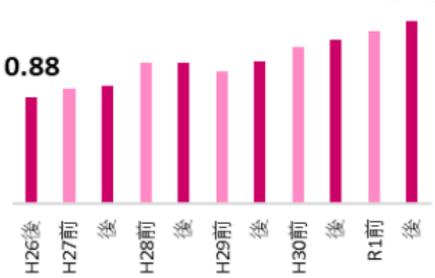
【共愛12の力の伸長】



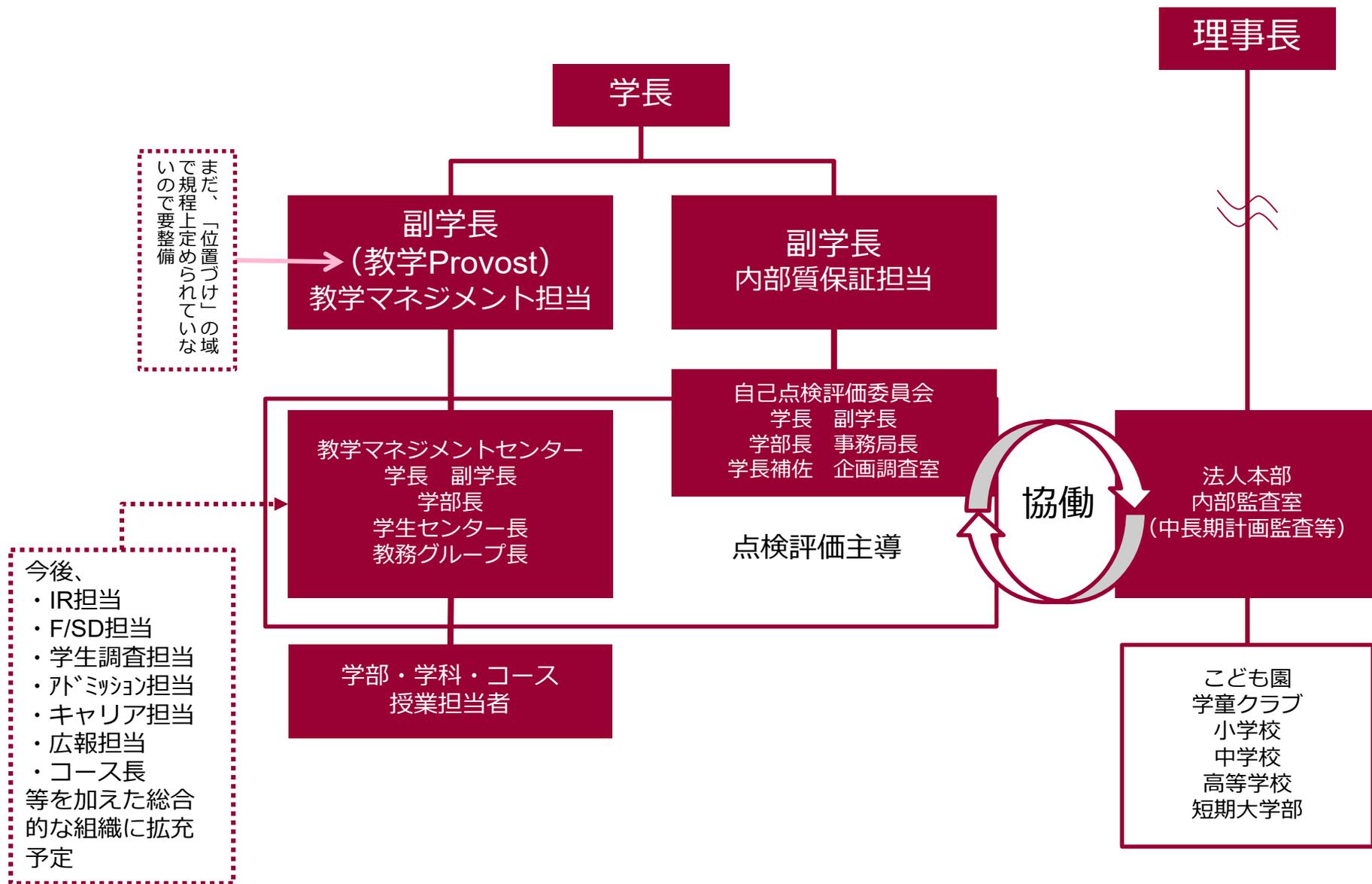
【授業手法別授業外学修時間】



【1科目毎の授業外学修時間】



共愛学園前橋国際大学における質保証に向けての体制整備の進捗状況



質保証を担う人材育成に向けて

学長 副学長 事務局長
 学部長 学科長 (コース長)
 教務担当
 FSD担当
 学生調査担当/IR担当
 外ミッション担当/キャリア担当
 広報担当
 内部監査担当
 等々・・・
 +個々の教職員

質保証は
 多様な人材が
 担うこととなる

本学の
場合

質保証は、「特定の部署・人の業務」にならないようにする必要がある。よって、「質保証の専門人材？」を雇用すれば良いというものでもないのでは？

- そのような人材がいるならば、その人材を抱えることを排除するものではない。
- 一方、小規模大学において、各領域の専門人材を雇うことは現実的ではない。

そうなると、
 一定のリーダーシップを発揮できるポジションに就く人が、内部質保証とは何か、教学マネジメントとは何かを理解していることが重要です。

ただし、リーダーは各大学の中で少数であり、自前の研修実施は現実的ではありません。

例えば、新任学長・新任副学長・新任学部長等々の質保証に係る研修の機会があってもよいのではないのでしょうか。

- 各大学の自助努力のみで質保証を促すのではなく、そういう形での支援があってもよいだろう。
- もちろん、既に各種実施されているカリキュラムマネージャー研修、IRer研修やFDR養成なども重要。
- また、リーダーが育つことで学内の質保証に関するFSDの質も向上するものと考えられる。

